

# Smooth Reader

## スタートアップ ガイド

1. iPad の基本操作	2
2. ヘルプ機能	3
3. 書庫と図書館	4
4. 読書のための設定	8
5. ホームビュー機能	12
利用例 ①～⑤	17
タップによる読み進め ①～③	24





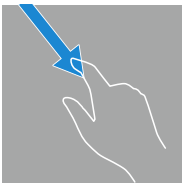
## タップ

指先で軽くポンと叩く



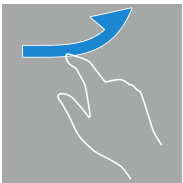
## ダブルタップ

指先で軽くポンポンと2回叩く



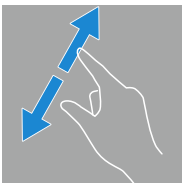
## ドラッグ

画面に指先を付けたままズリズリと滑らす



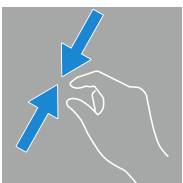
## フリック

指先で画面上をピンツと弾く  
(画面の上のゴミを払うような操作)



## ピンチアウト

2本の指（親指と人差し指など）で画面を押さえ、そのまま指の間隔を広げる（しわを伸ばすような操作）



## ピンチイン

2本の指で画面を押さえ、そのまま指の間隔を狭める  
(ものを挟むような操作)



## タッチアンドホールド

タッチした指をそのまま押さえ続ける

以下の説明で、画面上の操作を示すのにこのシンボルを用います。

# 2

# ヘルプ機能

## 1 ヘルプを出す



①画面をタップします。

→上下にバーが現れます。

\* リンクが貼られている箇所をタップした場合はリンク先に飛びます。



②左上の ⓘ ボタンをタップします。

→半透明のヘルプシートが現れます。

## 2 ヘルプを消す



③ヘルプシートのどこかをタップします。

→ヘルプシートが消えます。

( ⓘ ボタンのみブラウザのウェブマニュアルに移行します。)



# 3

## 書庫と図書室

- Smooth Reader では、本は「書庫」に格納されますが、「図書室」でそれを分類整理して見ることができます。
- 書庫で本に「棚分類タグ」を付けると、図書室の仕切りに並びます。

### 書庫



・すべての本が並ぶ場所です。

### 図書室



- ・タグの付いた本だけが並ぶ場所です。
- ・タグ名が仕切りの名前になっています。

以下のタグは自動的に付けられます（スマートタグ）。

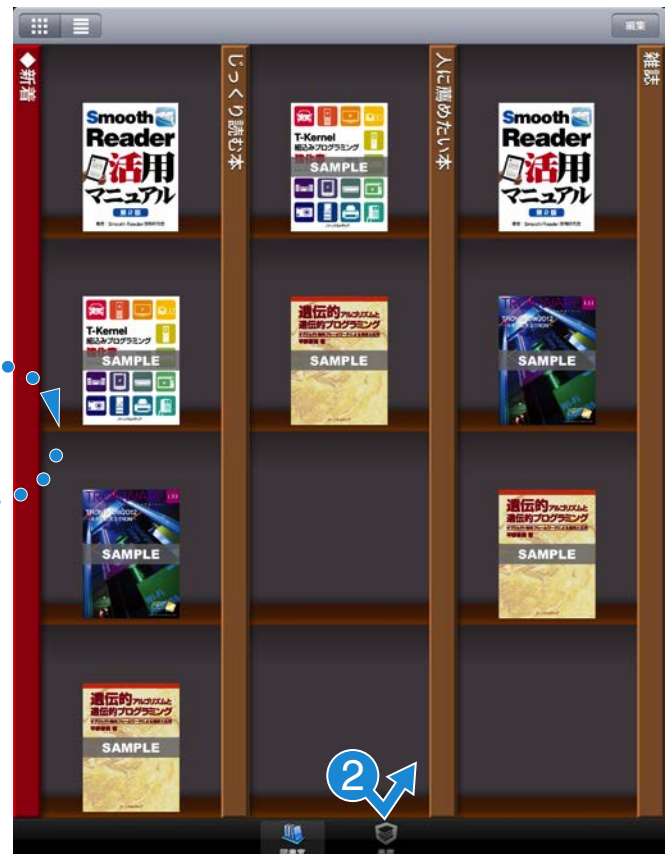
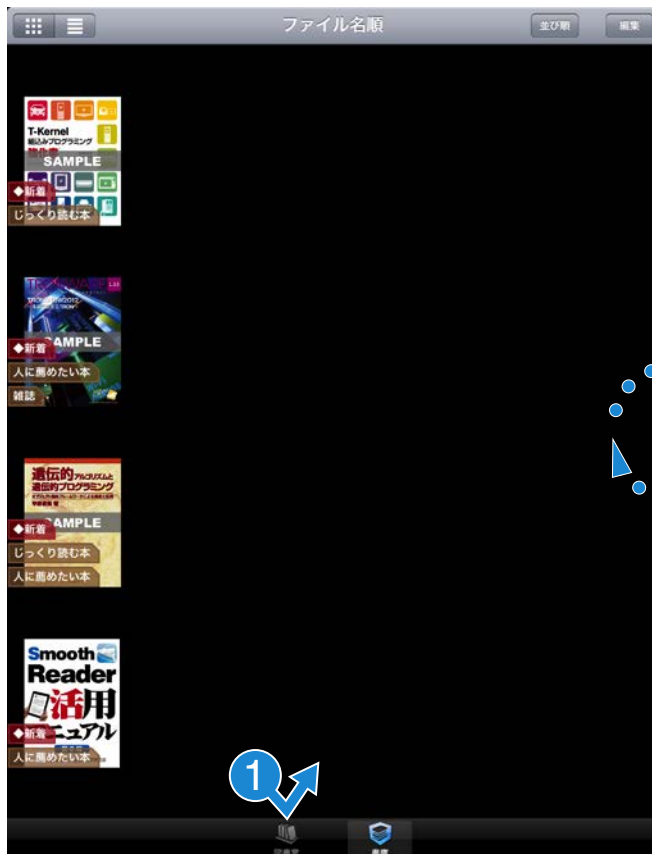
◆新着 ……新しく Smooth Reader に取り込まれた本に付く。

◆最近読んだ本 ……最近読んだ本に付く（最大 8 冊）。

# 書庫と図書館を切り替える

書庫

図書館



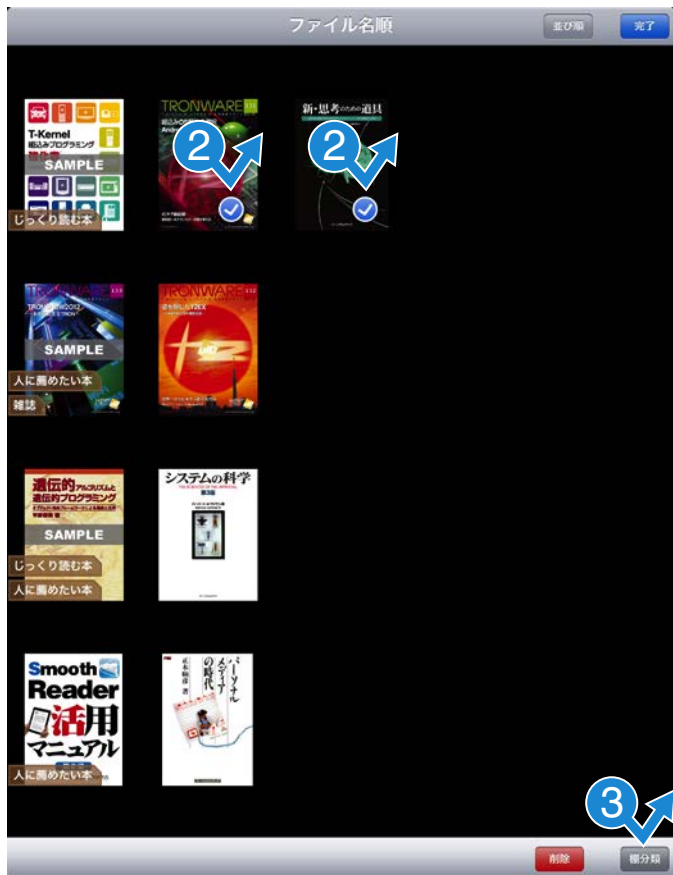
① ② 画面下の  や  をタップします。


→ 書庫と図書館が切り替わります。

# 本にタグを付ける



① 書庫の画面で、右上の **編集** をタップします。



② タグを付けたい本をタップします  
(複数の選択可)。  
→  が現れます。

③ 右下の **棚分類** をタップします。  
→ 棚分類画面が現れます。



④ 付けたいタグをタップします。

→ ✓マークが現れます。

マークを複数付ければ、一度に複数のタグを付けられます。

✓マークがあるタグをタップすると、タグをはずせます。

⑤ ✓マークを付け終わったら **完了**

をタップします。



新しく付いたタグ

⑥ 本にタグが付きました。

図書室に切り替えると、仕切りに新しく本が並んでいることを確認できます。

# 4

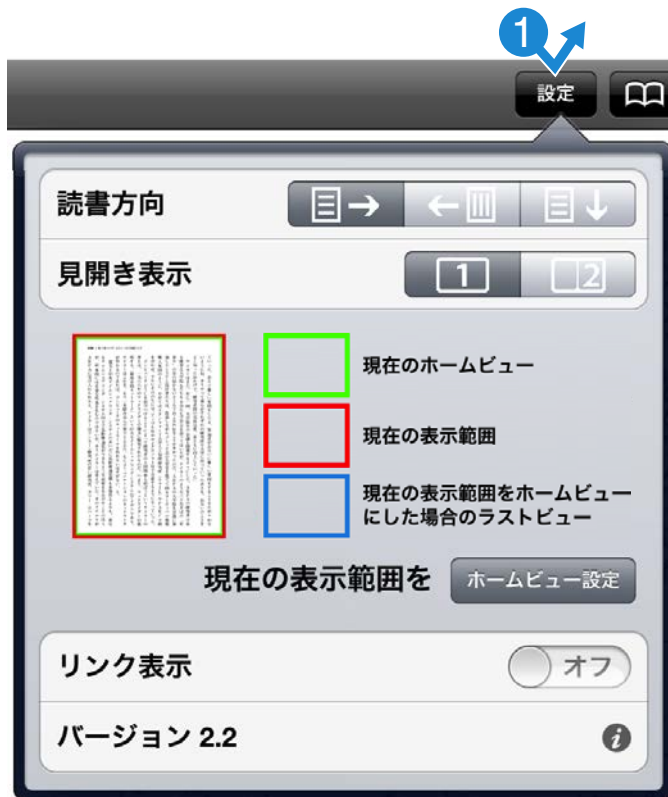
## 読書のための設定

- 本の種類にあわせて、以下の設定をします。

「読書方向」・・・ページを読み進める方向

「見開き表示」・・・画面に表示されるページの数

- 「見開き表示」は iPad の縦置きと横置きでそれぞれ別の設定ができます。
- 以下の画面で設定してください。



- 1 画面右上の **設定** をタップします。  
→設定画面が現れます。

「読書方向」と「見開き表示」で、次のページから説明する設定ができます。

※ **ホームビュー設定** ボタンの機能は、[P.12 「5. ホームビュー機能」](#)で説明します。



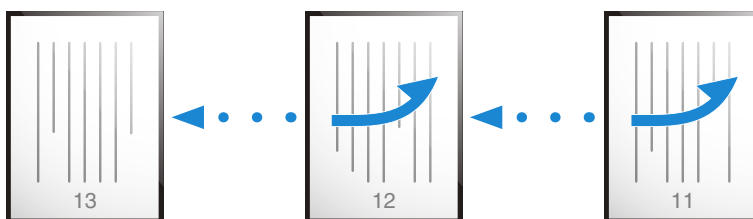
## 1 「読書方向」



ページを右方向に読み進めます。  
横書きの文書を読むときに設定します。



ページを左方向に読み進めます。  
縦書きの文書を読むときに設定します。



ページを下方方向に読み進めます。



ドラッグして、横書き文書のページに  
またがった段落を続けて見られます。






P.2 の下部

P.3 の上部

## 2 「見開き表示」

- 1画面に1ページを表示するのか、見開き2ページで表示するのかを設定します。
- 見開き表示の際のページの配置は、読書方向によって決まります。

読書方向 見開き表示			
 1 ページを表示			
 2 見開き2ページで表示			

## 見開き表示の利用例

iPad の縦置きと横置きで、それぞれ別の見開き表示を設定できますので、たとえば以下のように設定すれば、用途に応じて使い分けられます。

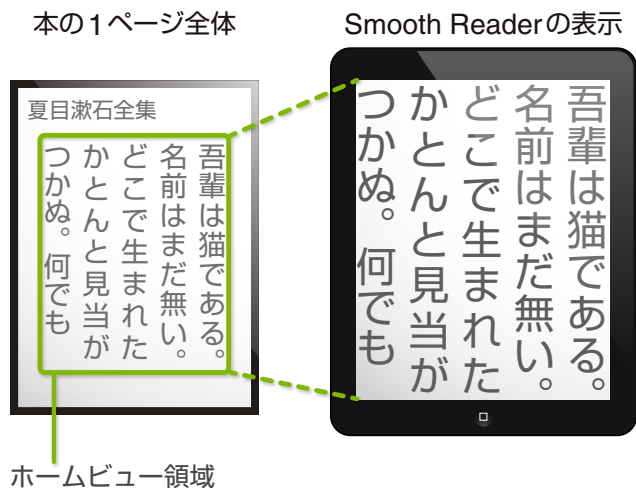


# 5

## ホームビュー機能

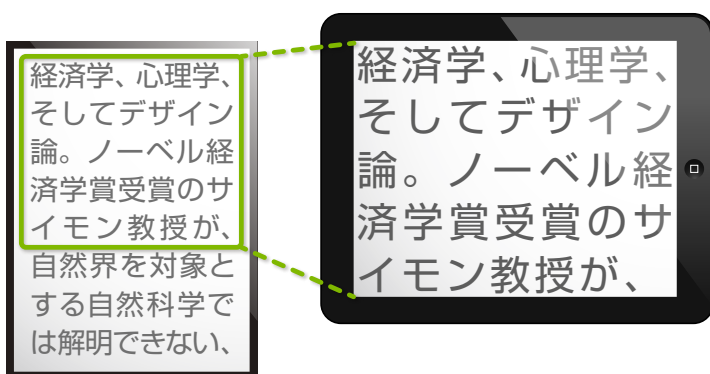
- **ホームビュー機能**は拡大表示のままページを読み進める機能です。  
小さな文字の本でも快適に読書できます。
- ページの中の**一部の領域をホームビューに設定**します。
- ページをめくると、**ホームビューの範囲が画面いっぱいに拡大して表示**されます。その分、文字が大きくなって読みやすくなります。

## 1 余白を除いた領域をホームビューに設定する例



ホームビューの範囲が iPad の画面  
いっぱいには拡大して表示されます。

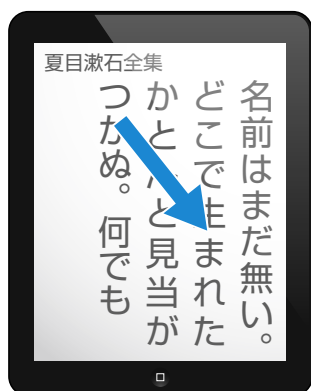
## 2 横書きの文書にホームビューを設定する例



iPad を横置きにすると、1 行全体が  
iPad の横幅いっぱいには拡大して表示  
されます。

# ホームビュー設定中に可能な操作

## 1 ホームビューの外側を読む

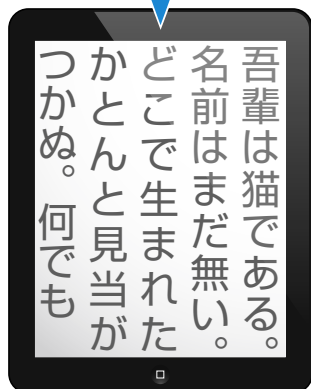


ドラッグすれば、ホームビューの外側も読めます。

## 2 ホームビューに戻る

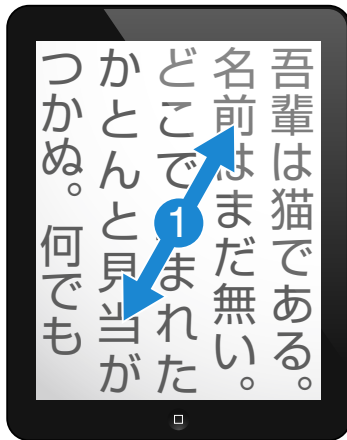


ホームビューでの倍率をさらに拡大していたり、ホームビューの外側を読んでいるときでも、ダブルタップすれば表示位置と拡大倍率は、ホームビューの状態に戻ります。

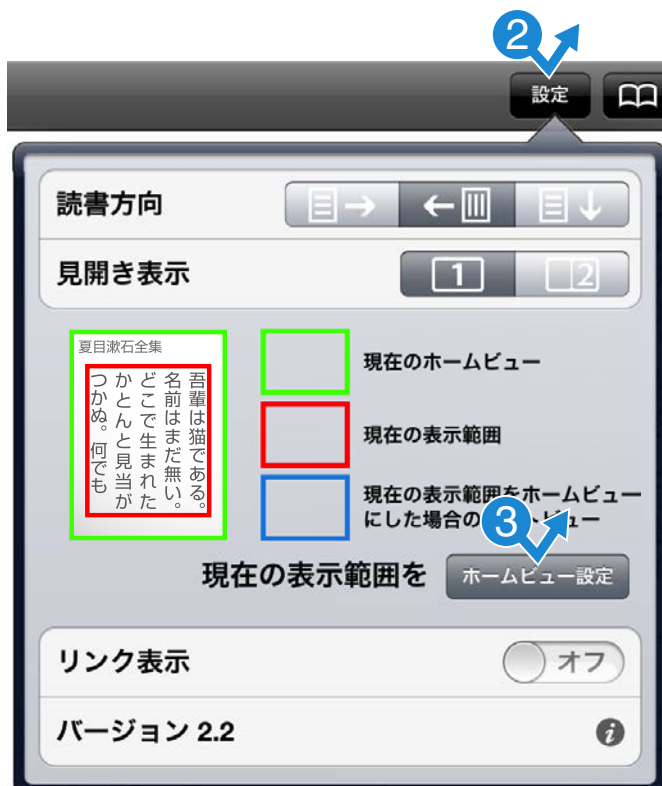


ホームビューに戻る。


# ホームビューを設定する




- 1 ピンチアウトやドラッグの操作により、ページの表示状態をホームビューに設定したい拡大倍率や表示位置にします。





- 2 画面右上の **設定** をタップします。  
→ 設定画面が現れます。

iPad の画面にページ内のどの範囲が表示されているかが  で示されています。

 については P.24 「タップによる読み進め」で説明します。

- 3 **ホームビュー設定** をタップします。

→  が縮んで  と重なり、その範囲がホームビューに設定されます。

# ホームビューを最初の状態 (ページ全面) に戻す



① ピンチインしてページ全面が表示されている状態に戻します。



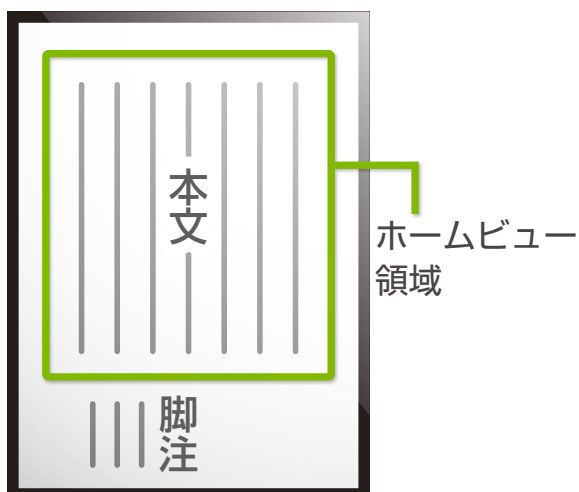
② 画面右上の **設定** をタップします。  
→設定画面が現れます。

③ **ホームビュー設定** をタップします。  
→これで、ホームビューが最初の状態 (ページ全面) に戻りました。



# ホームビューの利用例①

～本文を拡大して読む～



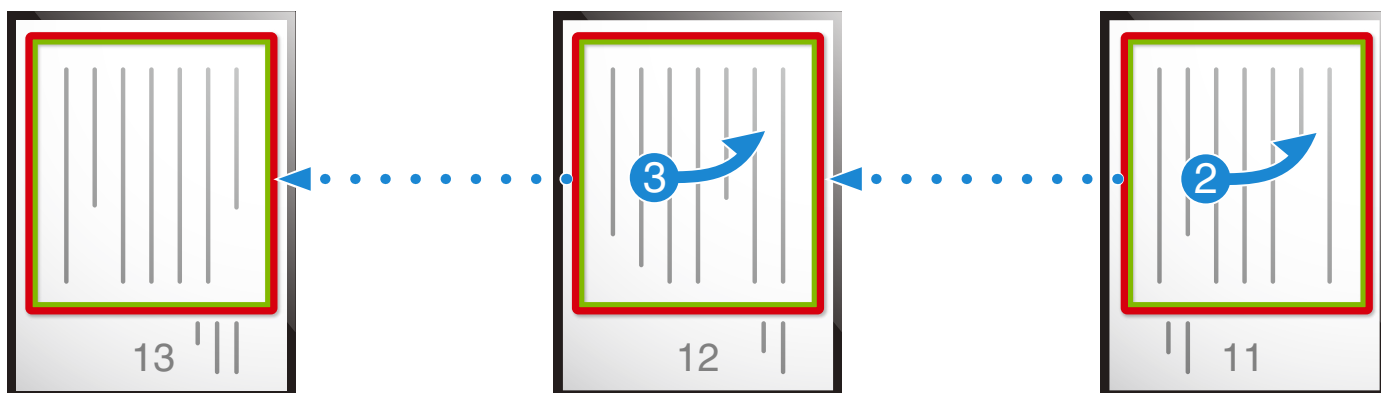
- ① 余白や脚注のある本では、それらを除く本文全体が表示されるようホームビューを設定します。

【設定値】

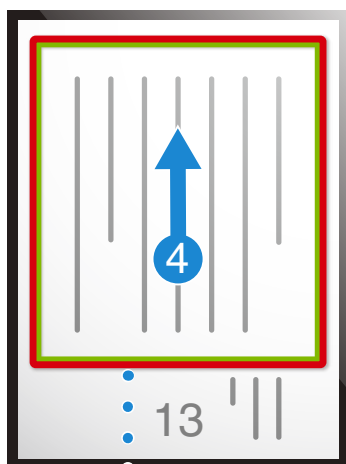
読書方向



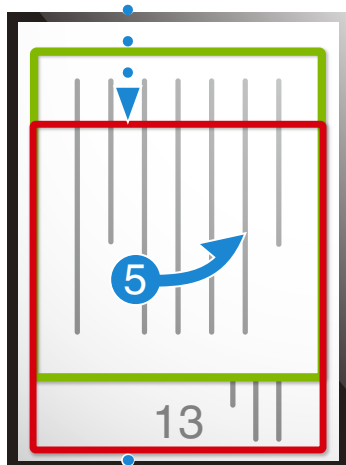
見開き表示



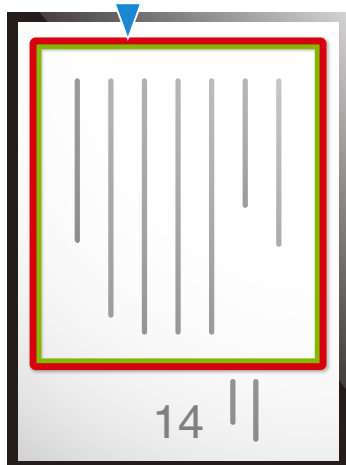
- ② ③ ページをめくると、ホームビューの範囲が画面いっぱいに表示され、本文が大きな文字で読めます。



④ 脚注を読むときは、ドラッグして一時的に表示位置を変更します。



⑤ ホームビュー以外を表示していても、ページをめくると次のページのホームビューに移ります。



次のページのホームビューが表示される

## ホームビューの利用例②

～(1) 縦長ページを横置きで読む～  
(横書き)



ホームビュー領域

- 1 縦長ページに横書きされている本では、iPad を横置きにし、1行全体が iPad の横幅一杯に表示されるようホームビューを設定します。

【設定値】

読書方向



見開き表示

1

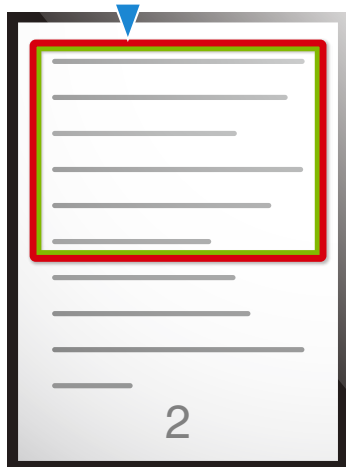
2



② ホームビューが表示されているときに**上方向へフリック**すると、ホームビューの高さの分だけ下に表示位置が移動します (P.1 の下半分の表示)。



③ 下半分が表示されているときに**左方向へフリック**してページをめくると、次のページ (P.2) のホームビューに移ります。

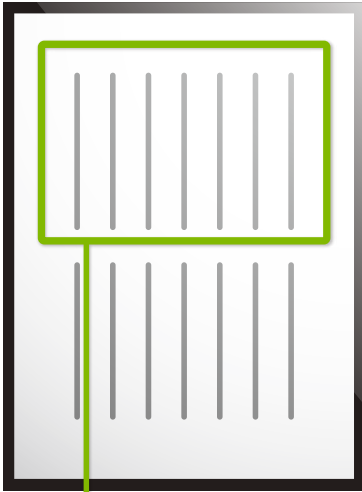


このように上フリックと左フリックだけで、拡大表示のまま読み進められます。

Smooth Reader に付属のサンプル文書「**ホームビューを使ってみよう**」には、iPad を横置きにすると上のようにして読み進められるよう、ホームビューが設定されています。お試しください。

## ホームビューの利用例③

～(1) 縦長ページを横置きで読む～  
(縦書きの段組)



ホームビュー領域

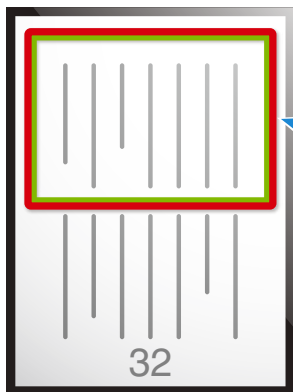
- 1 段組の本では、iPad を横向きにして、上段全体が表示されるようホームビューを設定します。

【設定値】

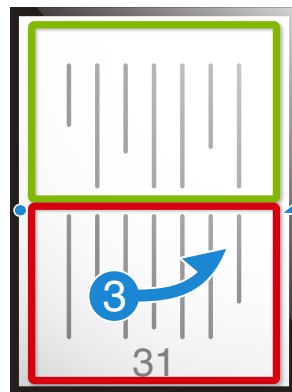
読書方向



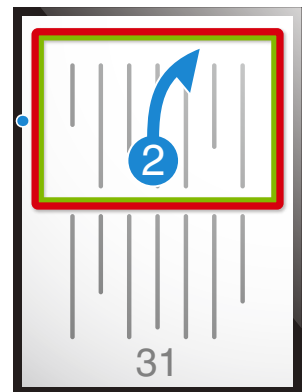
見開き表示



3 右方向へフリックすると次のページ (P. 32) のホームビュー (上段) へ移ります。

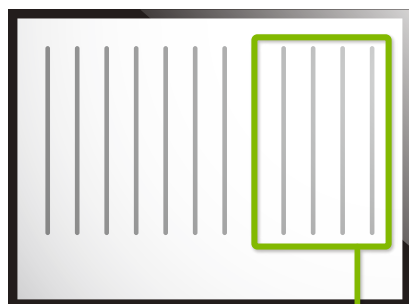


2 上方方向へフリックすると同じページの下段へ移ります。

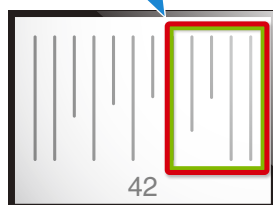
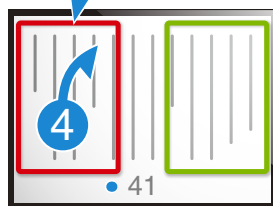
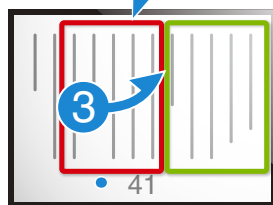
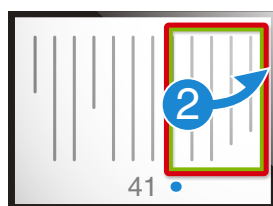


## ホームビューの利用例④

～(2) 横長ページを縦置きで読む～  
(縦書き)



ホームビュー領域



- 1 横長ページに縦書きされている本では、iPad を縦置きにし、読書方向を下にして、1 行全体が iPad の高さ一杯に表示されるようホームビューを設定します。

### 【設定値】

読書方向



見開き表示

1

2

- 2 3 右方向へフリックすると表示範囲の幅だけ左へ移ります。

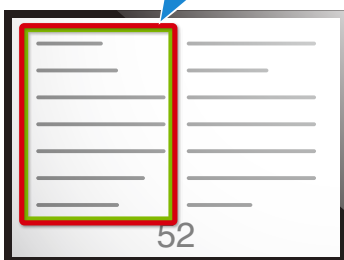
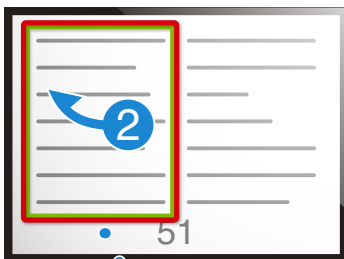
- 4 ページの左端まで来たら、上方向へフリックすると、次のページ (P.42) のホームビューへ移ります。

## ホームビューの利用例⑤

～(2) 横長ページを縦置きで読む～  
(横書きの段組や見開きでスキャンの本)



ホームビュー領域



- 1 横長ページに横書きの段組、あるいは見開きでスキャンされている本では、iPadを縦置きにし、読書方向を下にして、左段全体が表示されるようホームビューを設定します。

### 【設定値】



- 2 左方向へフリックすると同じページの右段へ移ります。

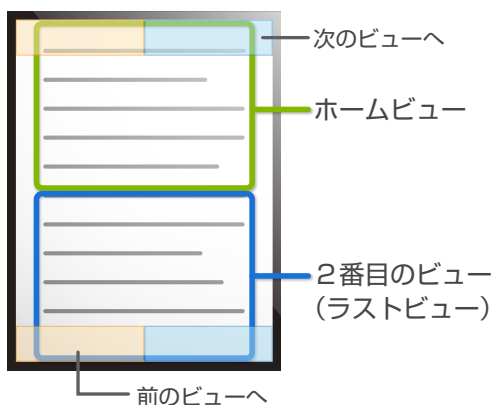
- 3 上方向へフリックすると、次のページ (P.52) のホームビュー (左段) へ移ります。

# タップによる読み進め①

～(1) 縦長ページを横置きで読む～  
(横書き)

① P.19 での縦長ページに横書きされている本の例をもう一度取り上げます。

フリック操作で読み進める場合、ページ内は上方向へフリックし、ページをめくるときは向きを変えて左方向へフリックする必要がありました。



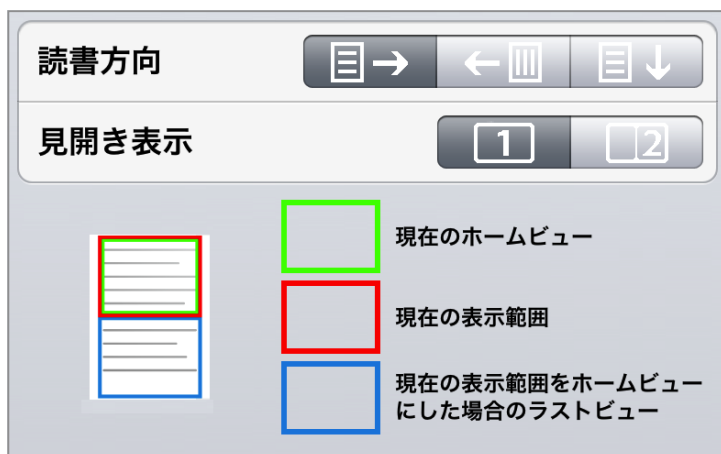
もし、ホームビューの下に同じ大きさのスペースがある場合、そこに次のビューが設定されます。こうすると、タップ操作だけでビューを移りながら、読み進めることができます。

画面の上下辺の右半分のタップ操作で次のビューに移れます。

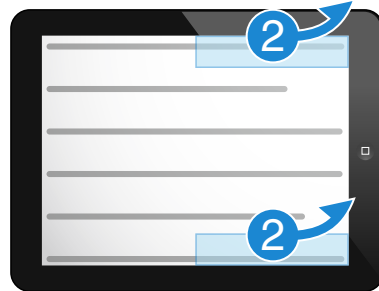
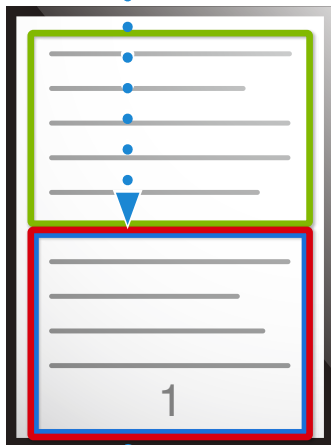
左半分のタップ操作で前のビューに移れます。

ラストビューは次のページのホームビューに続くので、そのまま同じタップだけで、ページを越えて読み進めることができます。

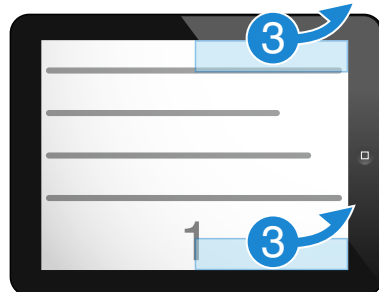
このとき、設定画面は以下のように表示されます。







② ホームビューが表示されているときに、画面の上辺右または下辺右をタップすると、2番目のビュー（ラストビューのP.1の下半分）へ移ります。



③ 2番目のビューにいるときに、同じ場所をタップすると、次のページ (P.2) のホームビューに移ります。

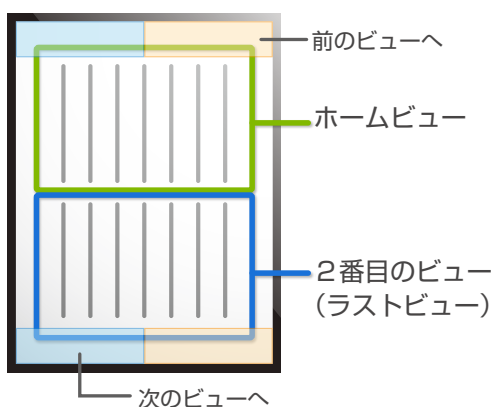
このようにタップ操作だけで、拡大表示のまま読み進められます。

Smooth Reader に付属のサンプル文書「[ホームビューを使ってみよう](#)」には、iPad を横置きにすると上のようにして読み進められるよう、ホームビューが設定されています。お試しください。

## タップによる読み進め②

～(1) 縦長ページを横置きで読む～  
(縦書きの段組)

① P.21での縦長ページに縦書きで段組されている本の例をもう一度取り上げます。

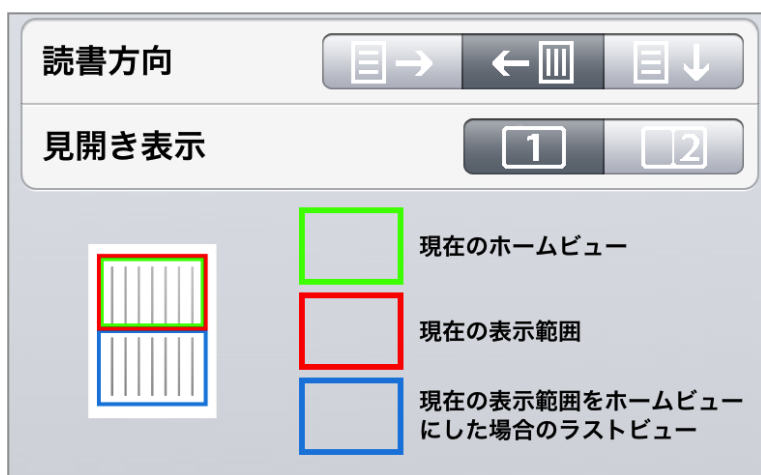


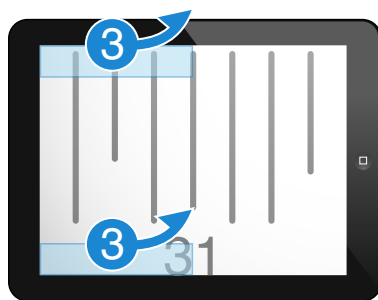
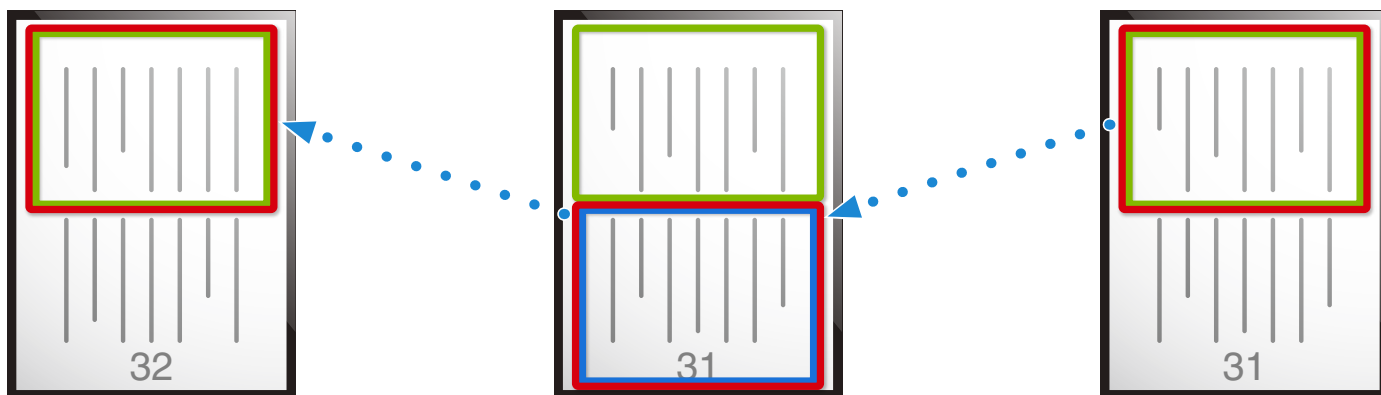
読書方向が [ ← ] の時は、画面の上下辺の左半分  
のタップ操作で次のビューに移れます。

右半分のタップ操作で前のビューに移れます。

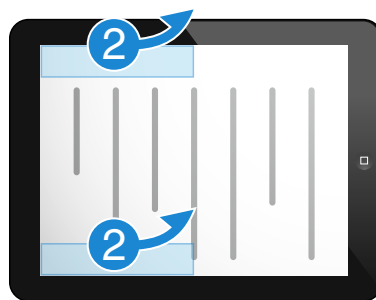
ラストビューは次のページのホームビューに続く  
ので、そのまま同じタップだけで、ページを越え  
て読み進めることができます。

このとき、設定画面は以下のように表示されます。





③ 2番目のビューにいるときに、同じ場所をタップすると、次のページ(P. 32)のホームビューに移ります。



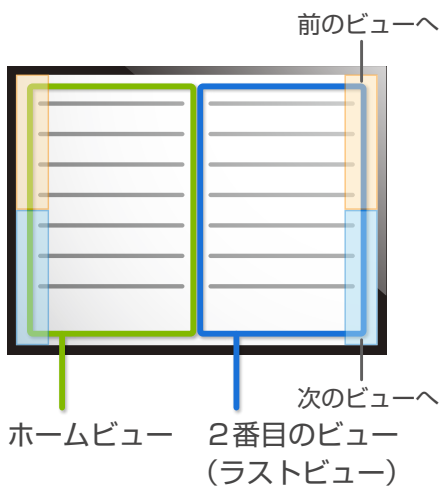
② ホームビューが表示されているときに、画面の上辺左または下辺左をタップすると、2番目のビュー(P. 31の下半分)へ移ります。

このようにタップ操作だけで、拡大表示のまま読み進められます。

## タップによる読み進め③

～(2) 横長ページを縦置きで読む～  
(横書きの段組や見開きでスキャンの本)

① P.23での横長ページに横書きで段組されている本の例をもう一度取り上げます。



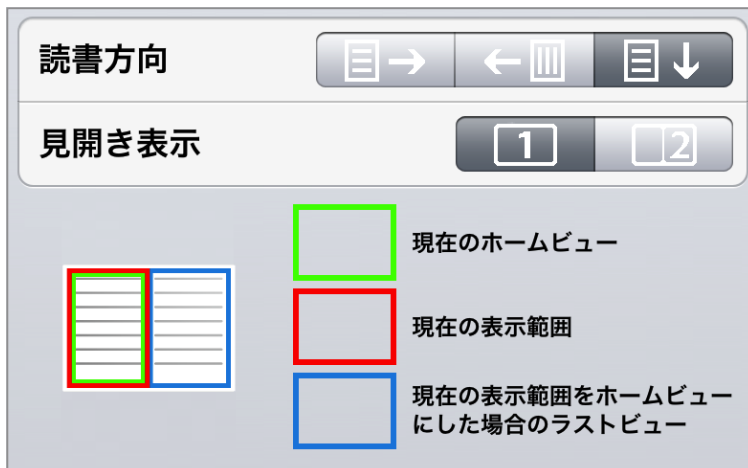
読書方向が [ ↓ ] の時は、画面の左右辺の下半分のタップ操作で次のビューに移れます。

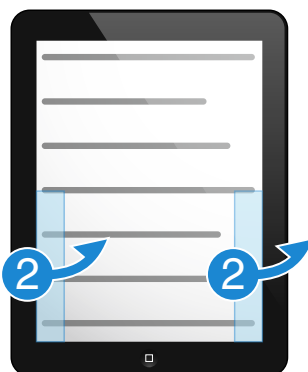
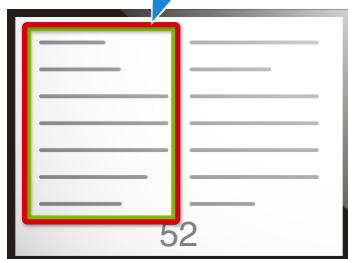
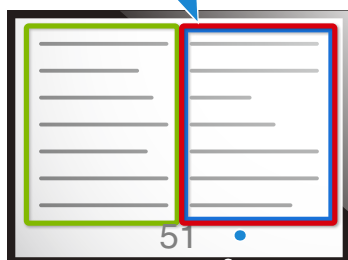
上半分のタップ操作で前のビューに移れます。

ラストビューは次のページのホームビューに続くので、そのまま同じタップだけで、ページを越えて読み進めることができます。

\* 現在は、見開きスキャンで縦書の本には対応していません。P.22「ホームビューの利用例④」で説明したように見開き右側をホームビューに設定し、右方向へのフリックで左側をお読みください。

このとき、設定画面は以下のように表示されます。





② ホームビューが表示されているときに、画面の左辺下または右辺下をタップすると、2番目のビュー（P.51の右半分）へ移ります。

③ 2番目のビューにいるときに、同じ場所をタップすると、次のページ（P.52）のホームビューに移ります。

このようにタップ操作だけで、拡大表示のまま読み進められます。

# Smooth Reader スタートアップガイド

---

2012年12月 初版

パーソナルメディア株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-29-1 コイズミビル

<http://www.personal-media.co.jp/smoothreader/>

E-mail: [sr-sales@personal-media.co.jp](mailto:sr-sales@personal-media.co.jp)

---

©2012 Personal Media Corporation